

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570300618		
法人名	営利法人 有限会社つだ福祉サービス		
事業所名	グループホーム 四季の音	ユニット名	1階
所在地	延岡市別府町3088-1		
自己評価作成日	平成28年8月31日	評価結果市町村受理日	平成28年11月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index.php?action_kouhouyou_detail_2015_022_kanistrue&livevosvoCd=4570300618-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「尊厳ある依存」という法人の理念を基に「グループホーム四季の音」でも事業所の理念を各階毎に掲げ、理念に向かって援助を行なっている。職員は、法人内で毎月行われる研修会に参加し、又、外部で行われる研修にも意欲的に参加し、認知症ケアの理解を深め実践している。又、地域の中の事業所として、地域の方々と交流を行い、地域の行事、奉仕作業などに参加している。利用者への援助は、「グループホーム四季の音」に入所しても、今迄の生活を続ける事が出来るように、一人ひとりに合わせた援助を行なっている。今までの生活が継続できるように、さまざまな要望に応える為に「その人らしさ」を引き出し、寄り添う援助を行なっている。「グループホーム四季の音」に住んでいる利用者は、表情豊かで穏やかに過ごす事を目標に援助している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者、職員は地域的環境を生かし、日常的に利用者と共に食材の買い出しやショッピングの支援を行い、地域とのなじみの関係を構築している。また、職員のケアの質の向上を目指し、資格取得の支援や研修を行い、事故報告書やヒヤリハットをもとに、その原因や対策を運営推進委員会で報告するとともに、関連グループ施設と情報を共有し、より良いケアが提供できるように努力している。家族には毎月の行事予定とともに、利用者の生活状況や診療受診日、残薬情報等、各個人ごとにホーム便りを行い、安心と信頼を得るよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成26年度の秋に1階、2階の理念の再構築を行い、再度1年後理念の見直しを行い、一部変更する。現在は、その新しく構築した理念を毎日1つ選んでその理念を達成できるように援助している。	理念がケアに反映されているかを日々振り返るとともに、日替わりで一つの理念を取り上げ、ケアの実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で行われる行事(夏祭り、防災訓練、清掃活動等)に全て参加している。又、ほぼ毎日のように食材、日用品等の買い物に利用者で行き、近隣の方との交流をしている。	近隣に店舗が多く、買い物や散歩で知人に出会うことも多い。また、店舗の人とは顔見知りとなっており、地域の人と触れあう機会も多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、毎回、認知症の人をどのように理解し、支援しているかの各報告を行い伝えている。又、近くのスーパーやホームセンター等に利用者と共に出かけ生活の様子を見てもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で事故報告、ヒヤリハット報告を行い、その内容について、各意見をいただき、その結果を事業所内で回覧し、職員間で情報を共有し、実践に活かすようにしている。	ホームの現況を報告するとともに、地域の情報を受け運営に反映している。事故報告書やヒヤリハットを報告することにより、認知症の勉強会の場にもなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも必ず参加していただいている。利用者からの相談、苦情など必ず市役所に報告し相談している。	必要に応じ行政機関へ出向いたり、電話で相談するなど、良好な関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内の研修にも取り上げて、身体拘束をしないケアに取り組み、職員間でも常に確認している。又、玄関の施錠は、事務所が休みの時のみ、外部からの侵入を防ぐ為に施錠している。	一、二階の行き来が自由になされており、利用者が階段付近に近づいた時は職員がすぐに寄り添い、階段の昇降を支援し、自由な暮らしができるようサポートしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一度は社内研修の中で虐待についての研修会を行なっている。利用者についての言葉使いについては、職員同士お互いに注意するようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用している利用者が1名いる。以前、社内研修で外部講師により学ぶ機会があり、職員間でも制度について理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、事業所の方針等をしっかり説明し、同意を得て納得していただき利用を開始している。又、改定時には、変更の内容を説明し、同意を得ている。解約時には、しっかり話し合い、お互い納得した上で、解約をする。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市内に家族がいる利用者は、頻りに面会に来ている。少ない家族でも月1回は来る。県外に住んでいる方に対しては、日々の様子を電話で伝え、意見等を聞いている。又、早急の対応が必要な時は、職員間で話し合う。		ホーム便りや来訪時、又は電話で状況報告等を行い、常に問いかけ、意見や要望を引き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議の中でそれぞれの意見を出してもらい、働きやすい職場づくりを目指している。		利用者の入浴時間変更の提案や勤務体制の改善等、職員の意見や要望を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務について、目標や悩みについて相談しやすい環境づくりを目指している。各自に希望休を聞き、週40時間の勤務体制が出来ている。給与水準も決められている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体の研修会を月1回必ず開催し、それぞれに参加し、スキルアップを図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修の時はもちろん、グループホーム協会にも入会しているので、研修時にも交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族からの要望、状況をしっかり聞き、アセスメントを行う。又、担当の職員を決めてしっかり連絡を取り、1日でも早くなれていただき、本人も安心して生活が送れるように取り組んでいる。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の要望にしっかり耳を傾け、話し合いを行なって関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況をしっかり把握し、何を必要としているか、困っているかを見極め、本人にあったサービスを関係者で話し合い、目標を立て援助している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者と一緒にいる事を目指し、買い物、料理等を共にしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻りに面会に来る家族もある。又、最低でも月1回程度は面会がある。県外に住んでいる家族に対しては、電話にて日々の様子を伝えている。その中で家族に協力いただける事は、お願いしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人の面会がある。来所時は、職員と一緒に日々の様子など話している。利用者の中には、家族と一緒に外出、外泊、外食する方もいる。関係性が途切れないようにしている。	地域の夏祭りに参加したり、延岡の風物詩である七夕祭りに作品を出品し、見学に出掛けている。また、梅干し作りをするなど、これまでの生活習慣の継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が集まって料理をしたり、おやつメニューを決めたり、レクリエーションを利用者と職員で行っている。利用者一人ひとりの性格等を理解している。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に医療機関に入院中だったら、継続してお見舞いに行き、「困った事などある時はいつでも相談して下さい」と言葉かけをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの今迄の暮らし、生活歴を把握し、本人の希望や意向を組み入れるようにしている。		毎日、リビングのテーブルに布団を干す利用者がおり、日当たりの良い所に別にテーブルを設け、いつでも利用できるようにするなど、その人の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄の生活環境や馴染みの暮らし方を本人や家族の方に聞き、部屋の環境も本人の今迄の生活環境に合わせるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに合った援助内容を職員間で話し合い共有し、支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のスタッフの会議の中で、それぞれの利用者の援助が介護計画どおりに実践されているか確認している。短期目標については、毎月計画作成者が本人、家族、職員の意見を取り入れ、モニタリングを行なっている。		本人や家族の意向・要望を取り入れ、担当職員や関係者の意見も反映した利用者主体の介護計画を作成している。また、デイリーノートとケアプランを毎日比較し、確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の日々の様子は記録に残している。日々のケアの実践については、朝と夕のミーティングで報告し、又、職員間の申し送り情報で共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの利用者に担当の職員がいる。家族に日々の生活の様子などを伝え、家族に要望等を聞き、毎月のモニタリングに反映している。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にあるスーパーやホームセンターに買い物に行っている。又、散歩時に知り合いの方に声をかけられ立ち話をする事がある。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を利用している利用者、又、以前からのかかりつけ医を利用し定期受診をしている利用者がいる。受診時は、日々の様子や症状を口頭や文書にて伝えるようにしている。	本人の今までのかかりつけ医の受診となっており、家族付き添いの下、受診している。医師に本人の状態等を細かく報告する必要がある場合は職員も同行し、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師に症状を伝え相談したり、法人内の看護師に相談し、早めに対応するようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の日々の状況を伝え、又、文書等でも報告している。入院中は、定期的に病院に行き症状を聞いている。退院時にも注意事項等をしっかり聞いている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化していく中で、本人、家族等の話し合いを行ない、事業所で出来る事を伝え、話し合い同意を得るようにしている。	重度化した場合における看取り指針を文書化し、契約時に説明している。本人、家族の要望を最大限に反映させる方針となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に1回普通救命士の研修を全員受けている。又、社内研修の中に急変時、応急処置等の対応についても行っている。マニュアルもある。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、事業所内で災害時の避難訓練、通報訓練を行なっている。それぞれの職員は誘導出来ている。又、地域の方の協力体制も出来ている。	今年四月、夜間想定避難訓練をしている。地域の人にも声をかけ、見守り等の協力を得ている。初期対応が大切であるため、定期的に連絡網を使用するなど、落ち着いて実施できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	殆どの職員が利用者一人ひとりに対して、優しい言葉使いで対応するように意識している。誇りやプライバシーを損なわないように心掛けている。		職員間で気づいた時には注意し合ったり、また、対応に限度が生じる前に職員の交代を行うなどしている。毎月、接遇の勉強会を行い、誇りやプライバシーの確保について確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりが自分で決定出来るように声かけを行い、出来るだけ自分で決めるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが無理する事がないように出来るだけ本人のペースに合わせて生活できるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に髪をとかし、季節に合った洋服を選んで着るようにしている。又、外出時は、自分のお気に入りの帽子をかぶる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作り、食材切りに参加してもらい一緒に行なっている。又、配膳の準備も行っている。		理念の一つに「毎日美味しいものを食べる」を掲げており、毎朝、利用者に「今日は何が食べたいか」と問い、それから食材を利用者とともにそろえるなど、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量、水分量の記録を行い、利用者一人ひとりの食べる量や栄養のバランスを注意している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所迄各利用者を誘導し、口腔ケアを行なっている。介助の必要な利用者は職員が一部行なっている。			

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に排泄誘導を行っている。一人ひとりの排泄パターンを把握している。布パンツ、紙パンツ等を使い分け対応している。		できる限りトイレでの排せつができるように、立ち座りが楽な用具などを設置し環境を整えている。おむつを使用している利用者はいない。夜間でも、誘導してトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材を取り入れ、朝食にヨーグルトを出している。排便の記録をし、便秘の状況を把握している。定期的に薬を服用し調整している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、午前と午後、日によって変更がある。1日おきに入浴出来るように支援している。		毎日ホームに通って自宅で入浴していると思っている利用者には、夕食後に入浴を取り入れるなど工夫して、利用者が安心して入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握している。就寝時間もほぼ決まっているので毎日同じ時間に就寝出来るようにしている。昼寝の必要な方は、声掛けを行なっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の内容を個人ファイルに綴じている。変更時は、申し送りにて職員に伝える。内服薬の準備時、服薬時必ず職員2人が確認して支援する。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でそれぞれの役割がある。洗濯物たたみ、洗濯物干し、料理の手伝い、モップ掛け等行っている。又、体操、下肢運動等も行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近所のスーパーに買い物に行っている。季節に応じて、市内の催し等見物に外出している。外出時に地域の方々に挨拶をし、会話をすることもある。		立地条件を生かし、商業施設へのショッピングや知人・家族協力の下、外食なども楽しめるよう支援している。季節に応じ花見や祭り見学、ドライブ等を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	1階	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で個人の現金を預かり、外出時や買い物時に本人の財布を持って行き、自分で選べる方には選んでいただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族の方からの手紙やハガキは、本人に渡し内容を読んでいる。又、電話に出れる方は、職員が傍について援助し、電話にて会話している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の通行するスペースには、物を置かないで安全に歩行出来るようにしている。季節の花を飾り季節感が漂うようにしている。	トイレは広く使いやすいように工夫している。また、浴槽は3方向になっており、利用者、職員ともに利用しやすい。共用空間を清潔に保ち、昼食後に、利用者が思い思いの場所でくつろげるよう配慮がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士と一緒に座り過ごしている。一人ひとりが自分の座る場所があり、落ち着いた環境の中で生活している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンス、椅子、ソファーなど置いている。又、家族の写真等も置いて本人が居心地良く過ごせるようにしている。	本人の今までの生活環境をできる限り再現するよう努めている。例えば、使用していた丸テーブルに、使っていたクロスを掛け鏡を置くなど、安心して過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人ができる事、好きな事が出来るように安全に配慮している。			